

CORPORATE PROFILE

KANAE PAINT

カナエは“塗料のプロフェッショナル” ペイント・テクノロジーの視点から 様々な専門分野で期待に応えます。

社会環境の著しい変化を背景に、情報化、環境共生、省エネルギーなどの新しい技術が進展し、私たちの暮らしは大きく様変わりしています。カナエ塗料はこうした変化を先取りし、塗料のサプライだけではなく、多様なニーズに応じた商品や技術を提供する企業へと進化しています。現在の主な事業分野は〈船舶・海洋〉〈車両・産業機械〉〈建築・建材〉〈共同開発・独創〉。それぞれの専門分野で、付加価値の高い商品や技術を通じて、お客様の様々なご要望にお応えしています。さらには、潜在的なニーズに着目した調査研究や新商品の開発など、新規分野にも果敢にチャレンジしています。

Ships, Vessels & Ocean Marine

船舶・海洋分野

海は地球表面積の約7割を占め、私たち人類に多くの恵みを与えてくれます。

近年、大量輸送、資源の効率利用の観点から、海を利用した物流、船舶輸送が再び見直されています。「船舶のカナエ」として親しまれてきた当社は、省エネ性にすぐれた船底防汚塗料と厳しい腐食環境から船体を守る防食塗料の開発等を通じて、この素晴らしい地球環境を未来に残すことに貢献しています。



Vehicles



Collaboration & Originality

共同開発・独創分野 (環境・安全・健康など)

異なった分野の技術と融合することで、新規技術を創造することに常にチャレンジしています。例えば環境のテーマにおいて、化学物質は私達の生活の中で必要不可欠なモノですが、扱い方や使用量を間違えると有害物質と呼ばれるようになります。これらの有害物質を「減らす」ではなく「無くす」よう、環境に配慮した研究開発を行っています。



Architecture & Building Materials

建築・建材分野

建築・建材塗料に求められる基本性能としては「美観の維持」「素材の保護」「環境との調和」の3点があります。紫外線や風雨にさらされた劣化の激しい環境下で、街の美観を損ねることなくそれらから建物を保護するのはもちろん、意匠性、メンテナンスフリー等の性能も求められています。この分野では、基本性能以外にも、こうした様々な機能を付加した塗料の提供を行っています。



KANAE PAINT TECHNOLOGY

& Industry Machinery

車両・ 産業機械分野

乗用車・トラック等の各種車両は、熱帯、亜寒帯などの厳しい気候条件、または未舗装道路においても使用されます。産業機械は、様々な現場環境の中で、日々使用する機械を保護する目的で塗料が使用されます。そうした多様な環境に耐える機能を持った塗料の提供を行い、産業社会に貢献しています。

船舶・海洋分野

Ships, Vessels & Ocean Marine

安全でスムーズな航海を実現するために、
私たちのテクノロジーが真価を
発揮しています。

船舶は、自然条件の中で最も過酷な環境におかれています。海水の塩分による腐食作用、海生生物の付着による運航への支障、強烈な太陽光線による劣化等です。

こうした厳しい環境から船体を保護するために、優れた塗料と適切な塗装が要求されます。

船底防汚塗料

海生生物が船底に付着すると、スピードの低下や燃費の悪化など船舶の運航に支障をきたすことがあります。これを防ぐのが船底塗料の役割です。

カナエ塗料では、環境への負荷が小さく、ロングライフの船底塗料を提供しています。

なお、船底塗料は国際海事機関（IMO）勧告により、2003年より世界レベルで非スズ化が実施されており、世界をリードする日本の技術は、各国から注目されています。

- 鋼船用船底防汚塗料
- アルミ船用船底防汚塗料
- FRP船用船底防汚塗料
- プレジャーボート用船底防汚塗料

プロペラ用防汚塗料

港に繋いであったボートを久しぶりに動かそうとしたとき、プロペラ（スクリュー）に海生生物が付着して、船が動かないということがあります。プロペラ用防汚塗料は、生物の付着を抑え、適正な推進性能を維持します。

- 小型船舶用プロペラ・シャフト防汚キット

漁網防汚剤

日本人の魚介類の消費量は世界一と言われています。また、現在の漁業は「採る」漁業から「育てる」漁業へと変革が進み、養殖が盛んに行われています。

海中に養殖用の漁網を浸けておくと、海生生物が網目一杯に付着して網の中の海水が汚れてくるため、魚の成長が阻害されたり、病気にかかりやすくなってしまいます。そこで防汚剤を漁網に塗布し、魚にとって良い環境を維持します。

- 養殖用低公害漁網防汚剤（全漁連認定品）
- 定置用低公害漁網防汚剤（全漁連認定品）



車両・産業機械分野 Vehicles & Industry Machinery

究極の強さと美しさを求めて。

“塗料の匠”が優れた輸送力と生産性を支えます。

日本の交通、物流は、乗用車・トラック・大型車両・輸送機械等によって支えられています。また、環境条件が異なる海外諸国においても、各種の車両が産業を支えています。

今日、自動車用塗料には、素材の保護だけでなく、デザイン性にもポイントを置いた幅広い性能が要求されています。

一方、産業機械に用いられる塗料は、様々な環境で使用されることや、目的や用途に合った塗料であることが条件となります。

自動車用塗料

海で築いた防錆技術を大型トラックに生かしたことが自動車市場進出のきっかけとなりました。半世紀に渡る実績を重ね、自動車市場のグローバル化に伴い、トラックのシャーシ塗料では、世界規格を満足させるレベルに至っています。近年は、乗用車部品メーカーとの共同開発によるプラスチック塗料に独自の技術を発揮しています。

- 車両シャーシ塗料
- 一液形高防食塗料
- 水性焼付塗料
- 水性常温乾燥形シャーシ塗料
- 水性常温乾燥形高防食塗料
- プラスチック用塗料
- 融雪剤対策用塗り替え塗料

産業機械用塗料

工作機械、建設機械、建設機材は様々な生産ラインで使用されることが多く、一般の人々の目に触れることはほとんどありません。機械の種類、作業環境、製造物等によって求められる性能は様々ですが、いわゆる「緑の下の力持ち」を担った商品を提供しています。

- 金属・機械用塗料
- 農機具用塗料

建築・建材分野

Architecture & Building Materials

建物やインフラストラクチャーの保護。
環境との調和を図りながら、暮らしの安全と人の健康を守ります。

建材には、金属・コンクリート・モルタルなど、数多くの異なる材質が使われています。また、同じ材質であっても、建築物の内部や外部など塗装場所が変われば、塗料や塗装方法を変えなければならないケースもあり、塗装部位や用途に応じた専用の塗料が求められています。

建築・建材用塗料

主に一般住宅に利用され、使用用途によって様々な対応が求められています。

建築基準法の改正（2003年7月1日）によるシックハウス対策品を提供し、今後、VOC（揮発性有機化学物質）の規制にも対応する塗料を提供してまいります。

- 内部用塗料
- 外部用塗料
- 屋根用塗料

建築構造物・鉄塔用塗料

ビルやプラント、電力会社の送電鉄塔に使用され、建物や構造物の防錆性及び耐候性を高めるために使用されています。目的や用途に合った適切な塗料と塗装技術が要求されます。特に鉄塔用塗料では、周りの環境に溶け込んだ色彩と超耐候性、また塗料の飛散防止などを加味した塗料が要求されています。超耐候性により、塗り変えを減らし、鉄塔へ登るという不安全作業の低減に役立っています。

- 飛散防止形鉄塔用塗料
- 超耐候形鉄塔塗料
- JIS規格錆止め塗料シリーズ

建材工業ライン用水性塗料

近年、環境負荷低減という観点から建物の高寿命化が求められており、外装建材用塗料の高耐候化と低汚染化が必要になってきています。

意匠性だけでなく、これらの要望にも応えられる高品質の塗料を提供してまいります。

- 薄形スレート屋根用水系塗料（水性アクリル系）
- 窯業系壁材用水系塗料（水性シリコンアクリル、水性フッ素系、水性無機系）
- 金属用水性塗料



共同開発・独創分野

(環境・安全・健康など)

Collaboration & Originality

時代のテーマに、社内外の知恵を結集。

機能豊かで、人や自然にやさしい新商品を創出します。

塗料技術と異業種の技術とのコラボレーションで、独創的な塗料技術を確立し、これを向上させることで新たな可能性を追求しています。

環境・安全・健康などを主なテーマとしていますが、中でも環境をテーマに塗料を開発することは社会の流れであり、その技術の向上は、新規開発を重視する当社にとって大切なことと考えています。

UV硬化形塗料

デジタル時代の肌荒れ「スマホ指荒れ」を抑制する防指紋コーティングをはじめ、『レイマジック』シリーズはフィルムやシートなどのプラスチック素材の未来を切り開き、幅広い分野で活躍する“KANAE”ならではの付加価値を提供します。

防曇塗料

ガラス類や透明材料などの視界確保が必要とされる箇所は、曇ることによって危険な状態に陥ることがあります。また、鏡などの反射材の効果を活かすことも可能です。

和風意匠塗料

土器のような質感を持ち、和紙のような奥ゆかしさを表現できる和風意匠塗料。素焼き陶器のようであり、和紙が水に濡れたときのような色の変化も愉しめる塗膜は、日本の侘び寂びをあらわす古くて新しいコーティング材です。

蓄光塗料

蓄光塗料は、暗闇でも光ってその存在感を表現します。停電時に光って欲しい箇所に使用されることが多く、近年では「非常口の案内」「防災時の避難箇所」などに使用されることが増えています。

エフロ防止塗料

水の侵入を食い止めるため、水を弾く撥水機能を付与。さらに素材を緻密化することによりエフロの発生を抑制します。

ストリップابل塗料

塗って剥がせる水性塗料。壁紙やプラスチック、金属、ガラス面に塗布し容易に剥がすことができます。塗装面の保護、汚れ防止、部屋のイメージを変えるなど、目的によって使用可能な塗料を提供します。

高意匠性塗料

複合色、メタリックによる単色では表現できなかった、一味違う自然本来の色彩や奥ゆきを再現することが可能な、質感にもこだわった塗料です。

何よりも大切にしたい、 お客様からの信頼と満足。



SALES & MARKETING

お客様に最も近く、数多くの接点を持つ部門。お客様が抱えている問題を的確に捉え、ニーズを把握して、適切な提案をしていくために、常にお客様と同じ目線であることを大切にしています。3現主義(現場・現実・現物)により、市場ニーズ、需要動向を見極めた上で、商品や技術の提供を行っています。

営業・マーケティング

カナエ塗料の創業の精神であり、基本方針として「感謝の経営」という考え方があります。これは「いつもお客様の立場に立って考え、心のかもった対応をすることで、その信頼を得ていこう」というものです。

この考え方を実践するために、私たちは、ネットワークの強化による情報の共有化や営業支援等により、組織の連携によるお客様への対応力の充実強化を図ってきました。

MANAGEMENT

品質、生産、物流の管理を行っており、お客様からの信頼を得るための重要なセクションです。スタッフがお客様と直接顔を合わせることはほとんどありませんが、お客様に安心していただける商品を提供できるよう努力しています。

管理



情報&組織のネットワーク強化で、 心が通い合う企業活動を展開しています。

今では、部門を問わず多くの社員が、お客様の目となり耳となって、ニーズに叶った商品や技術をタイムリーにお届けしたいという共通の認識を持って、業務に取り組んでいます。

時代が変わり、社会が変化しても、大切なのは人と人との心の通い合い。個人が、各部門が、そして会社が、お客様へのキメ細かな気配りに対応ができること、それがカナエ塗料の企業活動の基本であり、原点なのです。

情報&組織の ネットワーク

PRODUCTION

「よりよい商品を、迅速にお届けする」この普遍のテーマを達成するため、省力化と合理化を図ってきました。また、社会的要請であり、企業責任でもある環境への配慮については、有害物質である有機溶剤や顔料などを、製造過程で環境へ排出しないよう、徹底した管理体制の下、作業を行っています。

製造

RESEARCH & DEVELOPMENT

現在と未来のニーズをカタチにするための研究開発を行っています。「新しい技術を研究し、商品を創っていくのが楽しみ」という若い技術者がたくさんいます。高機能と環境配慮を主なテーマとし、独自の技術力により、高品質で安全・安心な商品づくりを行っています。なお、商品設計に際しては、お客様に品質を保証するための品質目標の設定に配慮しています。特に、先行技術開発に必要な耐久性、安全性、信頼性の評価を重視しており、お客様から高い評価と信頼をいただいています。

技術・R&D



環境への取り組み



私たちは、コーティング・ケアを通じて、
環境・安全・健康に配慮した事業活動を行い、
人と地球環境との調和を目指します。

これまで私たちは、地球の恵まれた環境と資源を最大限に利用し、今日の繁栄と利便性を築いてきました。「環境の世紀」と言われる21世紀は、地球温暖化や資源の枯渇といった大きな問題をかかえ、地球環境問題は、私たちにとって避けて通ることのできない課題です。“環境との調和を図りながら、経済の持続的発展を続けていく”という国際社会及び国を挙げての考え方に沿って、カナエ塗料は、塗料メーカーの立場として、高品質で安全な商品づくりに努力しております。

とりわけ昨今は、水溶性塗料によるVOC対応塗料をはじめ、錫フリー加水分解形防汚塗料、鉛・クロムフリー塗料、特化則非該当塗料など、環境配慮形塗料の開発に力を注いでいます。また、公害防止対策や省エネルギー、廃棄物の削減、安全防災対策等にも積極的に取り組んでおり、レスポンシブル・ケアの塗料版で、日本塗料工業会が推進する「コーティング・ケア」の実施宣言を平成15年8月8日に行いました。カナエ塗料は今後も、コーティング・ケア(環境・安全・健康を守る自主管理活動)の実施を通じて、皆様とのコミュニケーションを行うとともに、企業としての社会的責任を果たし、地球環境の保全に積極的に取り組んでまいりますので、ご理解と一層のご支援をお願い申し上げます。



事業所及び試験場所在地



岡山工場



沖縄屋外曝露場



地御前浸漬場

●本社・工場	●〒538-0044	大阪市鶴見区放出東1-6-13	●TEL:06-6961-2263	●FAX:06-6961-0861
●岡山工場	●〒709-4321	岡山県勝田郡勝央町太平台36	●TEL:0868-38-3155	●FAX:0868-38-3124
●東京支店	●〒135-0034	東京都江東区永代1-7-3	●TEL:03-3642-2711	●FAX:03-3643-3474
●東京サービスステーション	●〒340-0833	埼玉県八潮市大字西袋385-1	●TEL:0489-28-0102	●FAX:0489-29-0403
●名古屋支店	●〒456-0066	名古屋市熱田区野立町1-25	●TEL:052-682-2325	●FAX:052-682-2034
●大阪支店	●〒538-0044	大阪市鶴見区放出東1-6-13	●TEL:06-6961-7301	●FAX:06-6963-0085
●福岡支店	●〒810-0076	福岡市中央区荒津1-4-3	●TEL:092-771-5536	●FAX:092-714-5124
●札幌営業所	●〒003-0873	札幌市白石区米里3条2-9-8	●TEL:011-874-8831	●FAX:011-874-8832
●仙台営業所	●〒984-0038	仙台市若林区伊在2-4-3	●TEL:022-288-7060	●FAX:022-288-7094
●高松営業所	●〒761-8053	高松市西ハゼ町289番地1	●TEL:087-866-0433	●FAX:087-866-0434
●広島営業所	●〒731-0103	広島市安佐南区緑井6-14-24	●TEL:082-879-5511	●FAX:082-879-5643
●カナエ臨海研究所				

